

2024年度創立記念行事

先哲祭ミサ、永年勤続者表彰、創立記念プログラム

11月1日、上智学院創立記念行事として先哲祭ミサ、永年勤続者表彰、創立記念プログラム、懇親会が開催された。

■先哲祭ミサ

聖イグナチオ教会主聖堂で、サリ・アガスティン神父(上智学院理事長)の主司式にて行われた。「上智学院の発展のために尽力された先哲の働きに感謝し、積み上げられた実りをふさわしく受け継ぐことができるように」との祈りが捧げられた。

■創立記念プログラム・懇親会

「互いを知る、上智を語る、未来を考える」のテーマのもと、対面とオンラインを取り交ぜた5つのプログラムが実施された。プログラム名は別表の

とおりで、教職員間のコミュニケーション活性化を重視した企画が並んだ。

「学生と歩く、上智と四谷の魅力再発見まち歩きプログラム」など3つのプログラムには学生も参加した。続く懇親会は、参加プログラム別に開催され、ともに課題に取り組むことを通して親睦を深めた教職員、学生たちが談笑する姿が見られた。

■永年勤続者表彰

勤続25年および15年の教職員が表彰を受けた。アガスティン理事長は、「長年にわたるご尽力に感謝いたします。25年あるいは15年のご経験とともに、学院のさらなる発展のために力を発揮していただきたい」と述べた。



先哲に感謝を捧げるミサ

続けて、永年勤続者を代表して、青木研経済学部経済学科教授が、「25年を経ても変わらないもの、それは上智大学の理念です。変わらぬ理念を貫くには、社会情勢に合わせた大学の変化も



クイズを解きながら進むまち歩きプログラムの紀尾井町ルート

必要で、そのために微力ながら尽力を続けたい」と謝辞を述べた。

本年度表彰された永年勤続者は以下のとおり。

※()内は所属。敬称略。

プログラム名	企画担当	実施形態
ローマ教皇フランシスコ来校5周年記念～教皇のメッセージをどのように歩むか～	カトリック・イエズス会センター	対面/オンライン *学生参加
アンコール・ワットから学ぶ上智のミッション	アジア人材養成研究センター・他有志	対面/オンライン *学生参加
こころとからだをいたわるヨガ	学生局・基盤教育センター	対面
学生と歩く、上智と四谷の魅力再発見まち歩きプログラム	上智大学フューチャーセンタープロジェクト	対面 *学生参加
短期大学部サービスラーニング活動の紹介・ワークショップと権現山(弘法山公園)からの眺望	短期大学部	対面

勤続25年(17名)	
佐藤朋之(ドイツ文学科)	久森紀之(機能創造理工学科)
加藤浩三(国際関係法学科)	伊呂原隆(情報理工学科)
森下哲朗(国際関係法学科)	森下園(短期大学部英語科)
青木研(経済学科)	神谷雅仁(短期大学部英語科)
川西諭(経済学科)	栗原康行(環境整備グループ)
中里透(経済学科)	岩田孝一(学事センター)
中野晃一(国際教養学科)	大川玲子(学事センター)
YIU ANGELA(国際教養学科)	野尻真希(ウェルネスセンター)
高井健一(機能創造理工学科)	
勤続15年(27名)	
澤田稔(総合人間科学部)	飯田巧(環境整備グループ)
安西明子(法律学科)	原政孝(環境整備グループ)
高島亮(総合グローバル学科)	黒田健吾(人事グループ)
福武慎太郎(総合グローバル学科)	鈴木宏祐(人事グループ)
井坂直人(国際教養学科)	渋谷鮎美(財務グループ)
GRAMLICH-OKA BETTINA(国際教養学科)	中田綾(財務グループ)
THOMPSON MATHEW(国際教養学科)	藤井詩乃(財務グループ)
齊藤玉緒(物質生命理工学科)	櫻井はるか(学事センター)
鈴木教之(物質生命理工学科)	宮崎浩平(学事センター)
南部伸孝(物質生命理工学科)	江村知将(図書館)
高岡詠子(情報理工学科)	来栖朋子(図書館)
狩野晶子(短期大学部英語科)	小泉安里(研究推進センター)
福庭規子(経営企画グループ)	高橋惠梨香(研究推進センター)
小野寺晶子(総務グループ)	

ナーシングコミットメント・セレモニー 看護学科2年次生を祝福

10月5日、総合人間科学部看護学科のナーシングコミットメント・セレモニーが聖イグナチオ教会主聖堂で開催された。このセレモニーは、看護職を目指すにあたり、本学の精神と看護の技術を表す「手」に司祭から祝福を受けるもので、2年次生を対象に毎年10月に行われている。

校歌斉唱の後、石川ふみよ看護学科長が挨拶に立ち、絵本作家である谷川俊太郎氏の詩、「手と心」を引用しながら、「人がプロフェッショナルへと成長するための7割は、直接経験によって決まると言われている。この違いは経験から学ぶ力の差。今後どのような道を選んだとしても、難しい課題に取り組み、自身の思考や行動を振り返るとともに成長したと思えるところを見つけ、それを喜びにできることを願います」と式辞を述べた。

聖書朗読、司式者からのメッセージに続いて、アントニウス・フィルマンシャー神父と増田健神父から学生一人ひとりに「手」の祝福が授けられた。その後、人格の陶冶をめざす「学術の灯」と全人的ケアリングをめざす「看護の灯」を表すメインキャンドルの灯りが、2人の4年次生によって2年次生のキャンドルに受け渡された。

サリ・アガスティン理事長と隣道佳明学長の祝辞の後、2年次生代表の橋爪彩加さんが「私たちの手を医療現場に欠かせない様々な役割を持つツールとしていくために、講義などから身に着けた知、これまで演習の授業で習得した技、あたたかい心をこれからも磨いていこうと思います」と謝辞を述べ

た。最後に聖歌「Here I am, Lord」を歌い、式は終了した。



司祭から「手」の祝福を受ける



謝辞で今後への新たな決意が述べられた

ヨルダン王国王子殿下来校 教員や院生と 幅広いトピックスを議論

11月14日、日本とヨルダン・ハシエミット王国(以下、ヨルダン)の外交関係樹立70周年を記念して来日していたアル=ハッサン・ビン・タラール王子殿下(以下、ハッサン王子殿下)が上智大学に訪校した。サリ・アガスティン理事長と隣道佳明学長らが出迎えた後、中東地域やイスラーム研究を専門とする教員や大学院生とラウンドテーブル・ディスカッションを行い、学部生も聴衆として参加した。

会場では、主宰者の赤堀雅幸研究機構長の挨拶およびアガスティン理事長の歓迎の辞に続き、ハッサン王子殿下による基調講演が行われた。基調講演でハッサン王子殿下は、戦闘状態が続く中東地域の情勢や、今なお現地で甚大な被害に苦しむ市民の状況や子どもたちへの影響を紹介し、「中東地域が国際政治上で新たな役割を果たしてい



聴講した学生と握手を交わすハッサン王子殿下

くうえで、日本にもぜひサポートしてほしい」と力強く訴えかけた。

続いて、国際協力人材育成センター長の植木安弘教授が進行を務め、博識なハッサン王子殿下と政治、経済、地政学、教育、ジェンダーなど幅広いトピックスについて意見交換がなされた。

ラウンドテーブルに参加した博士後期課程グローバル・スタディーズ研究科の学生は「ハッサン王子の非常に幅広い知見のもと、(国土の約75パーセントが砂漠地帯のヨルダンで)水のネットワーク組織を立ち上げたり、科学技術に関する研究所を設立されるなど、グローバルイシューに対する熱意とその解決に向けた実践力に大きな感銘を受けました」と話している。

オンライン企画展開催中

「For Others, with Others—そのルーツと実践—」

ソフィア・アーカイブズでは、第5回オンライン企画展「For Others, with Others—そのルーツと実践—」を公開中だ。

本学の設立母体であるイエズス会は、聖イグナチオ・デ・ロヨラが、パリ大学の同志6人とともに創立し、1540年にローマ教皇パウロ3世から認可を受けた男子修道会で、創立当初から、学校教育が青少年の人間形成と社会変革に貢献すると認識し、重要なミッションと位置づけ

てきた。

本展示第1章では、「イエズス会と学校教育」と題して、1990年以降の活動をいくつか紹介し、イエズス会の特徴的な教育精神であるFor Others, with Othersの理念がどのように生まれてきたのかのルーツを辿っている。

第2章では、「上智学院の社会貢献活動」と題して、上智学院の設置校である短期大学部、広島学院中学校・高等学校、六甲学院中学校・高等学校、栄光学園中学高等学校、上智福岡中学



高等学校における、国内外での社会貢献活動について紹介しており、For Others, with Othersの精神がどのように受け継がれ、実践されているのかがわかる内容になっている。

■オンライン展示はこちらから

■問合せ先

ソフィア・アーカイブズ
Sophia-archives-co@sophia.ac.jp

